

— 茨城県土浦市 —

# い さ ろ 遺 跡

電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001(平成13)年3月

い さ ろ 遺 跡 調 査 会  
土 浦 市 教 育 委 員 会  
株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ

— 茨城県土浦市 —

# い さ ろ 遺 跡

電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001(平成13)年3月

い さ ろ 遺 跡 調 査 会  
土 浦 市 教 育 委 員 会  
株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ

## 序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川など水に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところでありました。そのため市内には、集落跡や貝塚、古墳、城跡などの遺跡が数多く存在しています。このような遺跡は、当時の人々の生活や環境などを知る手がかりとなります。また、現代に生きる私たちが文化的で豊かな生活を送ることができる先人の遺してくれた業績でもあります。

このような貴重な文化遺跡を保護し後世に伝えることは、私たちの大切な任務であり、郷土の発展のためにはとても重要なことです。

この度、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ茨城支店の電話用アンテナ施設他の建設工事に伴い、小岩田西地区のいさろ遺跡の一部について、記録保存を目的とした発掘調査が行われました。

調査の成果は本文に記載されているとおりですが、この調査報告書が土浦市の古代史の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査の開始から報告書刊行に至るまで多大なるご協力をいただきました、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ茨城支店をはじめ関係各位の皆さまに、あつく御礼申し上げます。

平成 13 年 3 月

土浦市教育委員会

教育長 尾見 彰 一

## 例 言

- 1 本書は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ茨城支店による電話用アンテナ施設他の建設事業に伴う、土浦市小岩田西一丁目497-1他に所在するいさろ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当調査は、土浦市小岩田西地内に所在するいさろ遺跡（県遺跡地図番号5253、市遺跡地図番号B-8）に関するものである。調査面積は約220㎡である。
- 3 調査は、株式会社エヌ・ティ・ティドコモ茨城支店の委託を受け、いさろ遺跡調査会が実施した。
- 4 発掘調査は、2000（平成12）年5月23日から6月6日まで合計11日間行われた。整理作業は、平成12年3月まで行われた。
- 5 発掘調査、遺物整理および本書の作成は、比毛君男が担当した。
- 6 当遺跡の調査の開始から整理作業にあたり、下記の方々や諸機関にご協力・ご指導を賜りました。記して感謝申し上げます。（敬称略、50音順）  
茨城県教育委員会文化課 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 窪田恵一  
大明株式会社 土浦市文化財保護審議会 福田礼子 松田 剛 矢口多美子
- 7 本遺跡出土資料や記録・写真類は、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場が保管している。

## 凡 例

- 1 遺構番号は現地調査時の呼称と同じものである。
- 2 遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真ともに一致する。
- 3 土層観察および出土遺物の色調判定は、『新版標準土色帖』〔日本色研事業株式会社 1990：（編）小山正忠・竹原秀雄〕を使用し、表現も同書に拠っている。
- 4 挿図版中の縮尺は以下の通りである。
  - 1) 遺物は基本的に1/3とし、大型の土器などは1/4で表現した。
  - 2) 遺構は基本的に1/60、遺構内の付属施設は1/30、ほかは掲載されたスケールによる。
- 5 挿図中の遺構の表現方法と基準は、以下に従う。
  - 1) 方位はすべて北を示す。数値は海拔高度を表し、m単位で示してある。
  - 2) 遺構の略称 竪穴住居跡：S I 土坑：S K 溝：S D 攪乱：K ビット：P
  - 3) 遺構内のトーンの意味は、以下の通りである。  
：貼り床部分 ：焼土範囲
  - 4) 竪穴住居跡の主軸は、炉や柱穴、貯蔵穴の位置で判断した。
  - 5) 付属施設のうち大きさに変動のあるものは、最大・最小値を計測した。
- 6 挿図および観察表中の遺物の表現方法は、以下に従う。
  - 1) 回転復原実測を行った遺物は、中心線を一点鎖線で表す。
  - 2) 実測図上の矢印は、ナデ・ケズリなどの調整の方向を示す。
  - 3) 法量 A：口径 ……口縁部外面端部間の長さ  
B：底径 ……底部接地面外側端部間の長さ  
C：器高 ……正置した状態で底面から口縁部上端までの長さ  
〔推定値〕 ……回転復原などによって、推定して得られた数値  
〔現存値〕 ……現状で遺存する部分のみの計測値
  - 4) 遺物実測図中のスクリーントーンの意味は、以下の通りである。  
：煤・炭化物付着範囲 ：赤彩範囲
  - 5) 遺物観察表中の残存率は、実測図で表現した箇所に対して実際の遺物がどの程度残っているかの割合であり、完形の遺物を想定した時に図化した箇所が占める推定値ではない。
- 7 挿図1～2では、地図を使用している。図の出典は以下の通りである。
  - 1) 図1は、土浦市都市計画図3 1万分の1を使用した。
  - 2) 図2は、土浦市都市計画図56 2500分の1を使用した。

## 目 次

序	i	第1章 調査経緯	1
例 言	ii	第2章 遺跡概観	2
凡 例	iii	第3章 発見した遺構と遺物	6
目 次	iv	第4章 調査のまとめ	16
挿図目次	iv	参考文献	16
写真目次	iv	調査組織	17
		報告書抄録	18

## 挿 図 目 次

図1 基本層序	2	図6 1号住居遺物出土状況	9
図2 近辺の遺跡	3	図7 1号住居出土遺物(1)	10
図3 調査区位置図	4	図8 1号住居出土遺物(2)	11
図4 調査区全体図	5	図9 1～5号土坑	13
図5 1号住居完掘状況	7～8	図10 1号溝完掘状況	15

## 写 真 目 次

PL1 遺跡の立地	花室川低地より北へ調査区を望む 調査区より南へ花室川低地を望む
PL2 1号住居完掘状況	1号住居遺物出土状況
PL3 1号住居検出状況	西壁周辺(北から) 北壁周辺(南から) 炬検出状況 南壁周辺(南から) 1号ピット 3号ピット
PL4 1号溝, 1号上坑	1号上坑土層堆積, 基本層序, 作業風景
PL5	2～5号上坑
PL6	1号住居出土遺物(1) 1～7
PL7	1号住居出土遺物(2) 8～9
PL8	1号住居出土遺物(3) 10～21

## 第1章 調査経緯

平成11年12月27日、電話用アンテナ施設他の建設事業を計画していた株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモと地権者の矢口多美子氏から、「埋蔵文化財所在の有無および取り扱いについて」の照会が、上浦市教育委員会（以後、市教委と略）に提出された〔範囲は図3を参照〕。

照会をうけて市教委は現地踏査を行い、申請地には周知の遺跡のいさろ遺跡が隣接しており、埋蔵文化財が存在する可能性があるため、試掘確認調査が必要であることを事業者との間で確認した。

2月3日に試掘確認調査を実施した結果、竪穴住居の跡と甕しき遺構が確認された。試掘の結果をもとに、市教委と株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとの間で保存についての協議を行ったが、工事内容と範囲の点で現状保存は困難であるとの結論に達し、発掘調査による記録保存を行うことで合意した。また今回発見した遺構は、周知の遺跡であるいさろ遺跡の一部として扱うこととなった。

なお当調査以前は、市教委による遺跡調査は基本的に上浦市遺跡調査会（会長 須田直之）が調査の委託を受けていたが、平成12年度の組織改編の結果、当調査以後は遺跡ごとに調査会を組織して対応することとなった。

以下に、調査に至る手続きを記す。

- 平成12年3月15日 文化財保護法第57条の2第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモから提出された。市教委は第215号付で茨城県教育委員会に進達。
- 平成12年3月16日 茨城県教育委員会は第306号付で市教委と株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモに、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について、工事着手前に発掘調査が必要である旨を通知。
- 平成12年3月31日 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモから、電話用アンテナ施設他建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査についての依頼文書が市教委に提出される。
- 平成12年4月26日 市教委は、いさろ遺跡調査会を組織し、規約等を制定する。
- 平成12年4月27日 いさろ遺跡調査会と株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ茨城支店の間で、いさろ遺跡発掘調査に関する契約書を、市教委の立会いのもと締結する。

続いて、発掘調査と以後の経過を記す。

- 平成12年5月23日 調査開始。木根伐採と調査区の精査。
- 平成12年5月24日 1号住居の掘り下げを開始。
- 平成12年6月2日 1号住居・土坑・溝など全ての遺構を完掘する。市教委が茨城県教育委員会に、「埋蔵文化財発掘調査の報告について」の文書を提出する。
- 平成12年6月3日 全ての遺構の実測が終了する。
- 平成12年6月6日 埋め戻し及び撤収。以後、整理事業を3月まで行う。
- 平成12年6月13日 市教委が埋蔵物発見届等を土浦警察署に提出。
- 平成12年6月15日 市教委が発掘調査終了の確認依頼等を茨城県教育委員会に提出。
- 平成12年6月23日 茨城県教育委員会が発掘調査終了の確認を市教委に通知。
- 平成12年7月7日 市教委が株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモに発掘調査終了を通知。

## 第2章 遺跡概観

土浦市は茨城県南部に位置し、東に霞ヶ浦の土浦入りを望む。市の人口は約134,000人で、面積は約92㎢を測る。市内の地形は、中央に桜川の沖積低地、北の新治台地、南の筑波稲敷台地の3つに概ね分けられる。各台地の標高は約20～30mである。

いさろ遺跡は、筑波稲敷台地を分流する花室川の左岸に位置し、標高は約23mである。遺跡のある台地の左右には谷が樹枝状に貫入し、一見すると大きな舌状台地を呈する。但しながら、台地の端部には各所で小支谷が入り組んでおり、絶壁のように極端に比高差をもつ地形上の特徴がある。

筑波稲敷台地の基本層序は、下総層群を基盤とし、関東ローム層、表土と続く。遺構の掘り込みは、基本的に関東ローム層内にとどまる。当調査では、調査区南東部に確認面下約1mまでテストピットを設け、基本層位の観察を行なった〔図1〕。表土下には、いわゆる黒ボク土が約20cmほど堆積し、以下ソフトローム層、ハードローム層と続く。

この花室川流域は、台地縁辺を中心に遺跡が多く分布する〔図2参照〕。近年では、開発行為の増加に伴う埋蔵文化財発掘調査が多く行われる地域の一つである。

最近における近辺の調査事例としては、平成11(1999)年度の土浦市遺跡調査会による小岩田西1丁目地内の内出後遺跡の発掘調査が挙げられる。当調査では、主に古墳時代中期から後期の集落と中世の上坑群などを発見した。また平成9(1997)年度には、小岩田東1丁目地内の神出、東出、中居の3遺跡が土浦市遺跡調査会により調査された。神出遺跡からは、古墳時代20軒、平安時代22軒の堅穴住居のほか、中世の掘立柱建物・地下式塚・土坑などが多数発見された。東出遺跡では古墳時代1軒、奈良・平安時代2軒の堅穴住居などを発見した。中居遺跡からは、平安時代の堅穴住居1軒などが発掘されている。平成5(1993)年度には、茨城県教育財団によって念代遺跡、平坪遺跡の調査が行われている。前者からは奈良・平安時代を中心とする集落跡が、後者からは古墳時代と平安時代の住居跡が発見された。昭和49(1974)年には、茨城県教育委員会からの委託を受けた日本窯業史研究所が永国遺跡の発掘調査を実施している。調査では、縄文早期・中期、弥生時代、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代の住居群が多数見つかっている。

また、地図の範囲外となるがこの他にも当遺跡周辺では、以前より烏山遺跡・向原遺跡など多くの発掘調査が行われており、記録保存された資料が蓄積しつつある。

続いて以下に、近辺の遺跡一覧を示す。



図1 基本層序

【近辺の遺跡一覧】

No	遺跡名	県道番号	時代	備考
1	いさろ遺跡	5253	古墳(中期)	今回の調査対象遺跡
2	永国遺跡	5260	縄文 弥生 古墳(前・中・後期) 奈良・平安	昭和47年度発掘調査 湮滅
3	宮久保遺跡	5261	古墳 奈良・平安	
4	阿ら地遺跡	5252	古墳(前・中・後期) 奈良・平安	
5	才の内遺跡	—	縄文 古墳(後期)	
6	油麦田遺跡	5251	古墳(後期) 奈良・平安	一部湮滅
7	桜ヶ丘遺跡	5254	古墳(後期)	湮滅
8	谷畑遺跡	—	縄文 古墳(前期)	
9	桜ヶ丘古墳	5255	古墳	湮滅
10	内出後遺跡	5250	旧石器 縄文 古墳 奈良・平安 中・近世	平成2, 11年度発掘調査
11	南古屋敷館跡	—	中世	
12	神出遺跡	5274	縄文 古墳 奈良・平安 中・近世	平成9年度発掘調査
13	右初十三塚	5245	中・近世	
14	牧の内遺跡	5213	古墳 奈良・平安 中・近世	
15	念代遺跡	5214	古墳 奈良・平安 中・近世	平成5年度発掘調査
16	平坪遺跡	5215	古墳 奈良・平安	平成5年度発掘調査
17	沖ノ台遺跡	5219	古墳 奈良・平安	

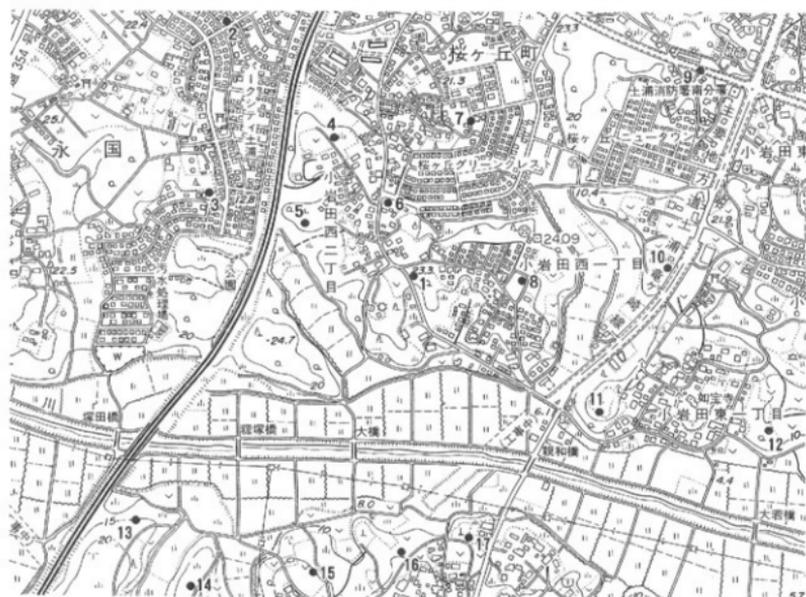


図2 近辺の遺跡



図3 調査区位置図  
 (調査区は矩形内のアミ部分である)

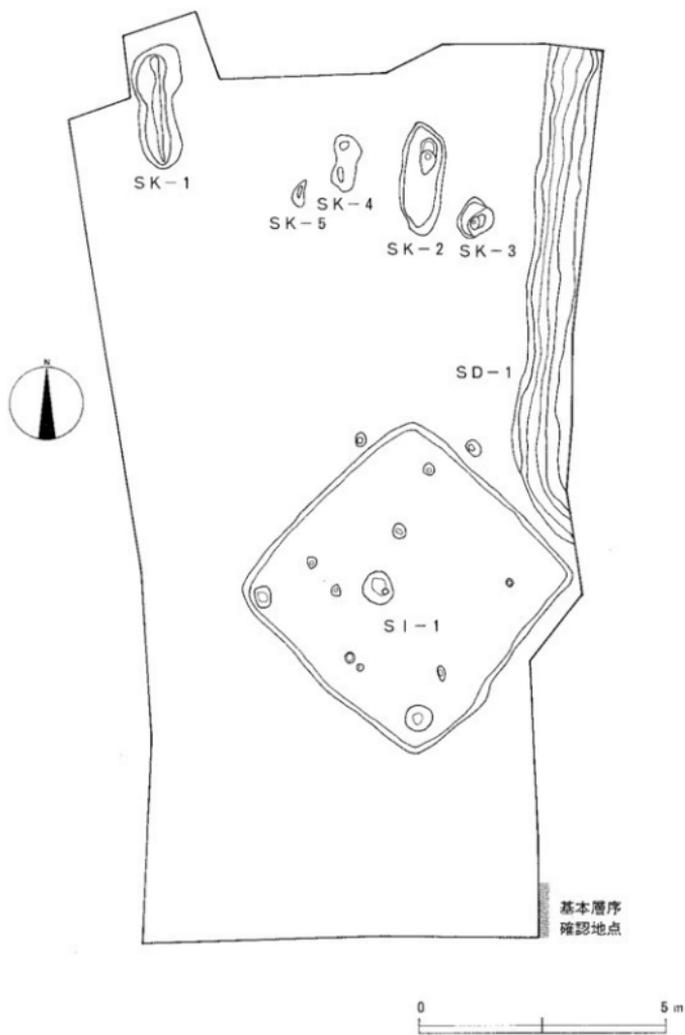


图4 调查区全体图

### 第3章 発見した遺構と遺物

#### ◆1号住居〔図5～8〕

主軸方向 N-46° - W

規模と形状 径約490(～520)cm×510(～525)cmの方形を呈する。

壁面 深さ約30cmでほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床面 炉の周辺から西側と東側の一部にかけては貼り床状を呈するが、その他の部分は樹根などの影響で遺存状態は悪い。

ピット 10基検出した。配置と規模から考えて、P4～7は主柱穴、P1・3は貯蔵穴、P2・9は入口用施設と判断する。その他のピットも住居に伴う可能性がある。

炉 住居中央からやや北西寄りに、1基確認する。径約65×60(～65)cmの楕円形で、炉床面は一部赤化した部分が残るが、樹根などの影響で遺存状態は悪い。炉床の覆土から、土師器壺の口縁部(7)が出土した。

覆土 3～8層がはじめに堆積した後で、1・2層の水平堆積が生じたものと考えられる。このうち1・2層は、地表に生えていた木の根が特に強く入り込んでいた層である。

遺物 土師器(図7～8 1～11)と土玉(12～20)、石(21)などが出土した。このうち、1, 2, 4, 6～11, 16, 19は、当遺構に確実に伴う遺物と考えられる。覆土中層出土の21の石(重量約500g)は、砂岩質で一部被熱赤化した箇所があり、わずかに鉄(?)のような付着物を残す。

所見 この住居は出土遺物などから判断して、古墳時代中期のものと考えられる。

【1号住居出土遺物観察表】

種別	器種・器形	法量	出土位置 残存率	焼成	胎土	色調	器形・技法の特徴	備考
1	土師器 高杯 碗部	B [11.4] C (8.0)	覆土下層 40%	良好	長石粒少量 石英粒少量 雲母粒微量	外面：明赤 褐色 内面：褐色	覆やかに開く輪部に筋きripp状に外反する 裾部。輪部外面は縦位ヘラミガキ。裾部外面 横位ヘラミガキ、内面横位ハケメ。	体部外面 と杯部内 面は赤彩
2	土師器 高杯 碗部	C (5.6)	覆土下層 20%	普通	長石粒多量 石英粒少量 雲母粒微量	にぶい 赤褐色	"エンテリス様"にふくれる輪部から直線的 に開く裾部。輪部外面縦位ヘラミガキ、内面 横位ヘラミガキ、器表が荒れている。	
3	土師器 高杯 杯部	C (2.2)	覆土中層 40%	不良	長石粒少量 石英粒少量 雲母粒微量	明褐色	覆やかに立ち上がる杯部。杯部内面は器表の 剥落が著しい。外面一部に横位ヘラミガキ痕 残る。	
4	土師器 埴 口縁部	A [13.6] C (5.4)	覆土下層 40%	普通	長石粒少量	明赤褐色	直線的に外反する口縁部。内面横位ヘラミガ キ。内外面ともに器表一部荒れている。	
5	土師器 甕 口縁部	A [14.5] C (2.3)	覆土中層 50%	普通	長石粒少量 石英粒微量 雲母粒微量	橙褐色	覆やかに外反する口縁部。外面横位ハケメ の上、横ナデ。一部縁付着。内面横位ハケメ の上横ナデ。	
6	土師器 甕 口縁～胴部	A [17.0] C (8.8)	床面直上 40%	普通	長石粒少量 石英粒微量 雲母粒微量	外面：褐色 内面：明褐色	球状に立ち上がる胴部に筋きり外反する口縁部。 口唇部は5より反りが強い。胴部外面ナデ、 内面ヘラミガキと指痕。口縁内面横位ハケメ、 外面横ナデ。	
7	土師器 甕 口縁～胴部	A [18.2] C (5.4)	炉覆土 40%	普通	長石粒多量 石英粒多量 雲母粒少量	外面：褐色 内面：明褐色	やや外反気味の頸部から胎付による有段部分 を経て、大きく外反する口縁部。外面面整不 明瞭。内面横位のヘラミガキ。	

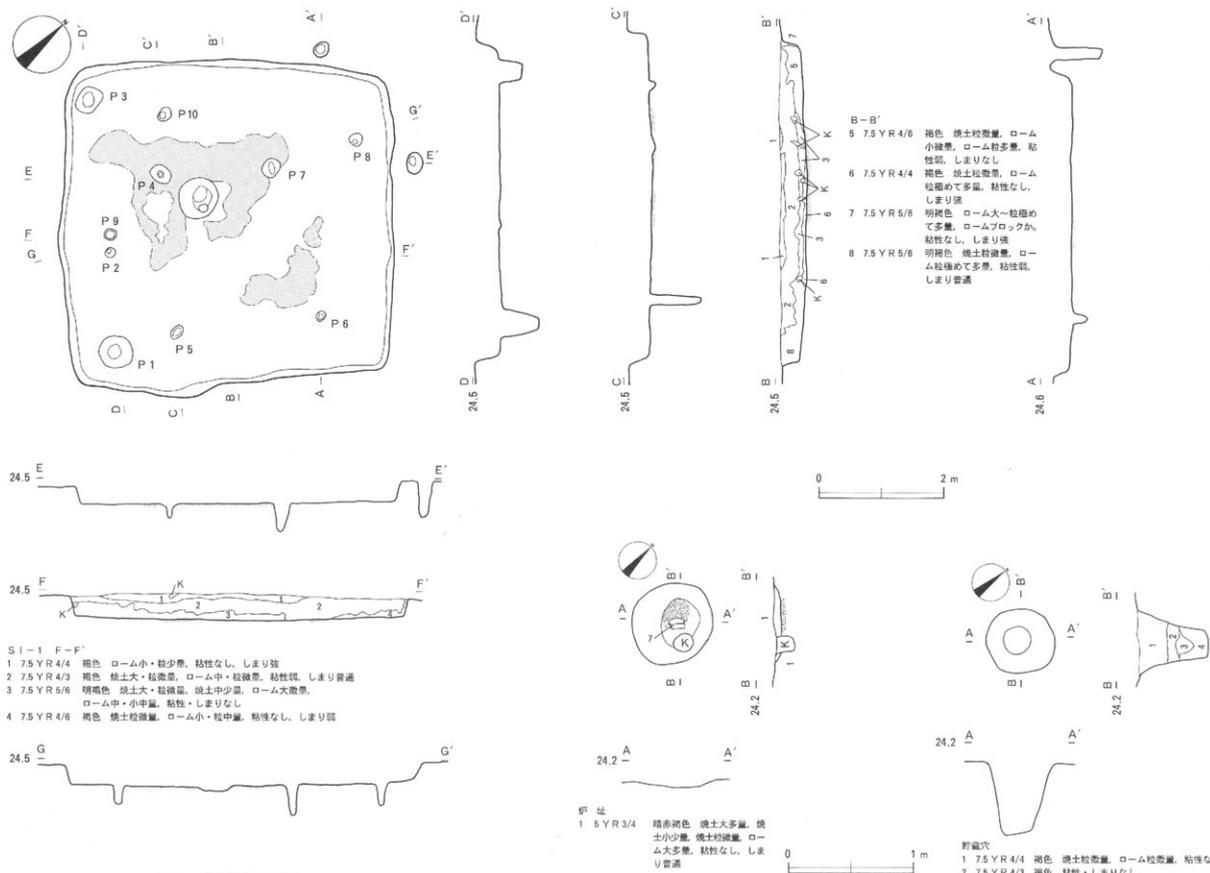


図5 1号住居完備状況

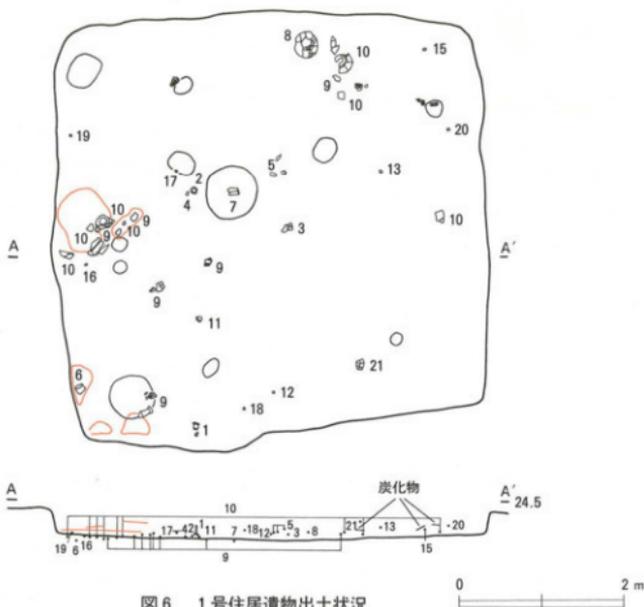


図6 1号住居遺物出土状況

8	土師器 壺	A 17.5 B 7.6 C 31.6	床面直上 90%	良好	長石粒少量 石英粒微量 雲母粒微量	明赤褐色	上方に伸びる球状の胴部から口縁部は外反。胴部外面下半に一部ヘラナデを残すも、全体を横位ヘラミガキで調整、一部煤が付着。	最大径 27.3 cm
9	土師器 壺 口縁~胴部	A 15.7 C (18.6)	床面直上 70%	普通	長石粒微量	橙 色	8に似て球状の胴部から口縁部は外反。胴部外面はヘラとハケメ痕をミガキ、内面下方は横位ヘラナデで、頸部にかけて指頭面が残る。口縁部外面上方はミガキ、内面は横位のミガキ、口唇部は横ナデ。	
10	土師器 壺	A 15.2 B 6.8 C 27.3	床面直上 80%	良好	長石粒微量 雲母粒微量	明赤褐色	球状の胴部から口縁部は外反し、縁帯状の口唇部に至る。縁帯は横ナデの後、頸部からのハケメを下から上に施す。胴部はハケメをヘラミガキ調整し、一部煤が付着する。	最大径 24.4 cm
11	土製品 ミニチュア	A 6.6 B 4.6 C 3.1	床面直上 100%	普通	長石粒少量 石英粒少量 雲母粒少量	明赤褐色	小型の杯。成形は手づくねによるものかナデとヘラの痕が微かに残る。	
12	土製品 土玉	長 2.9 幅 2.7	覆土下層 100%	普通	良 土	黒 色	片方の穿孔部は、わずかにすれている。全体によくミガキ調整される。	重量20.6 g 孔径 0.6cm
13	土製品 土玉	長 2.7 幅 2.8	覆土中層 100%	普通	良 土	にふい褐色	全体によくミガキ調整される。	重量21.1 g 孔径 0.6cm

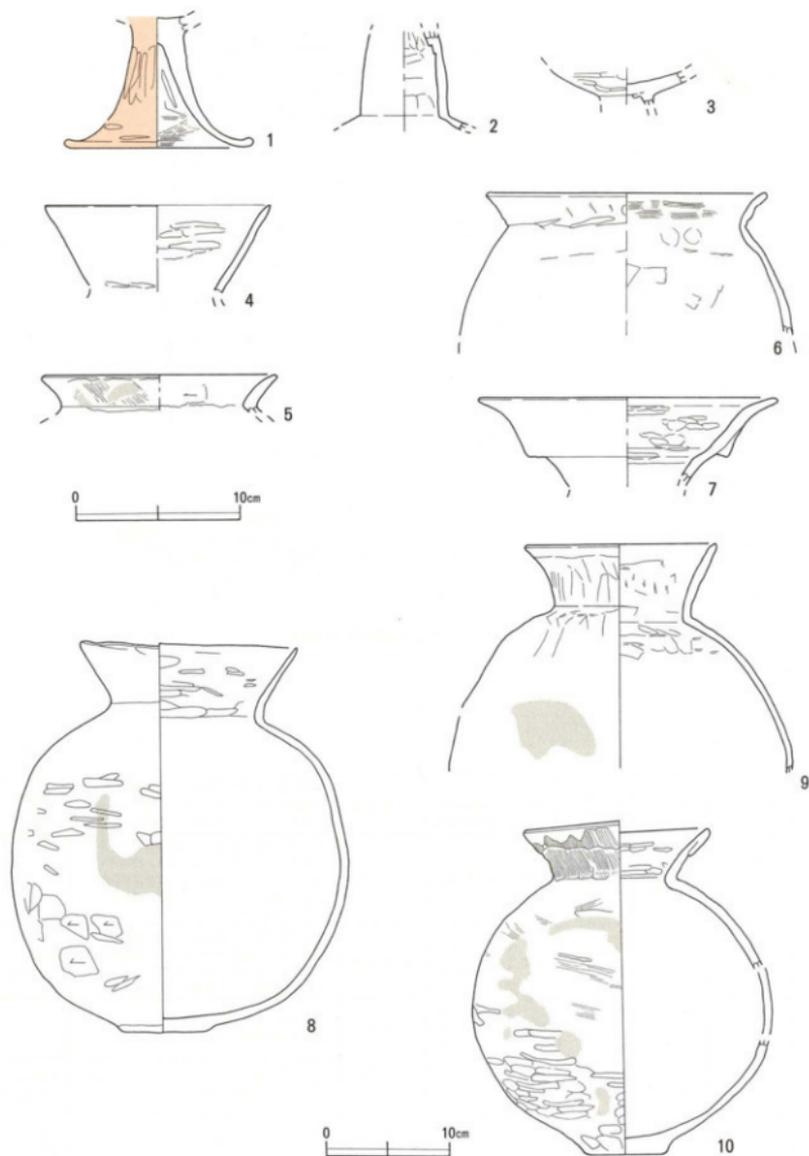


图7 1号住居出土遗物(1)

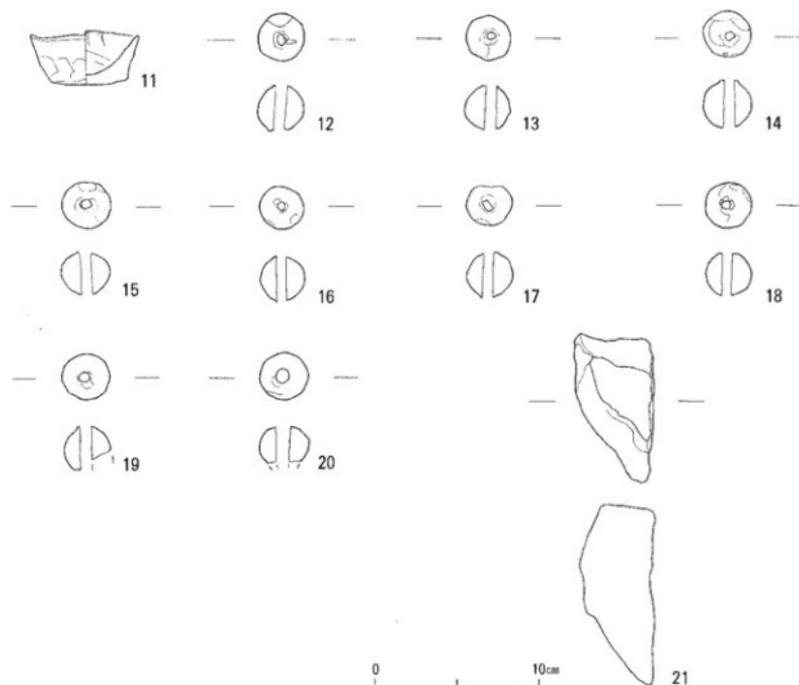


図8 1号住居出土遺物(2)

14	土製品 土瓦	長 2.8 幅 2.9	P1 覆土 100%	良好	長石粉微量 良 土	橙 色	全体によくミガキ調整される。	重量21.2g 孔径 0.5cm
15	土製品 土瓦	長 2.7 幅 3.0	覆土中層 100%	普通	長石粉微量	明黄褐色	双方の穿孔部は一部欠損する。ミガキの痕が一部残る。	重量20.6g 孔径 0.7cm
16	土製品 土瓦	長 2.8 幅 2.65	床面直上 100%	普通	長石粉微量	橙 色	片方の穿孔部は一部すれて欠損する。	重量17.6g 孔径 0.6cm
17	土製品 土瓦	長 2.7 幅 2.8	覆土下層 80%	普通	長石粉微量	にがい褐色	外面に割落箇所あり。	重量18.8g 孔径 0.6cm
18	土製品 土瓦	長 2.6 幅 2.8	覆土中層 100%	普通	良 上	橙 色	片方の穿孔部は、一部欠損する。全体によくミガキ調整される。	重量19.5g 孔径 0.55cm
19	土製品 土瓦	長 2.7 幅 2.9	床面直上 80%	普通	長石粉微量	黒褐色	片方の穿孔部は、一部欠損する。	重量18.8g 孔径 0.7cm
20	土製品 土瓦	長 (2.2) 幅 3.0	覆土中層 80%	良好	長石粉微量 石英粒微量	にがい褐色	片方の穿孔部は、一部欠損する。胴部の一部すれた痕あり。	重量41.1g 孔径 0.9cm

◆ 1号土坑 [図9]

- 長軸方向 N-5°-W  
規模と形状 径約235×70(～98)cm。上面観は長楕円形状を呈し、底面にすまばる。  
壁面 南北は垂直に、東西側は垂直に立ち上がったあと、やや外反する。  
底面 長細く幅狭の長楕円形状を呈し、確認面からの深さは約120cmである。  
覆土 褐色を基調とする自然堆積。最下層の5層はロームブロックやローム粒からなる、明らかにしまりのない堆積上であった。  
遺物 未掲載だが、覆土上層から縄文土器片が1点出土した。  
所見 本土坑は出土遺物から判断して、縄文時代のものであると考える。形態的に類似するものとしては、落とし穴があげられる。

◆ 2号土坑 [図9]

- 長軸方向 N-6°-W  
規模と形状 径約85×220cm。上面観は長楕円形状を呈する。  
壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。  
底面 長楕円形状を呈し、確認面からの深さは約55(～60)cmである。底面中央からやや北寄りに浅い落ち込みがある。  
覆土 4層に分層できる自然堆積である。  
遺物 出土していない。  
所見 本土坑の具体的な時期・役割は不明である。

◆ 3号土坑 [図9]

- 長軸方向 N-15°-W  
規模と形状 径約85×70cm。上面観は2つの楕円形が切れ合うように見えるが、新旧関係は確認できなかった。  
壁面 西側はほぼ垂直に立上り、浅い中間場をもつ。東側は、下場から1段生じて垂直に立ち上がる。  
底面 円形状を呈し、確認面からの深さは約68cmである。  
覆土 灰が上面で観察された。  
遺物 未掲載だが、覆土中から鉄銜、七輪などの破片が出土した。  
所見 本土坑は出土遺物から、比較的最近の時期にゴミ穴として掘られたものと考えられる。

◆ 4号土坑 [図9]

- 長軸方向 N-5°-W  
規模と形状 径約110×45(～50)cm。上面観は浅い2つの楕円形がつながるように見える。  
壁面 緩やかに立ち上がる。  
底面 楕円形状を呈し、確認面からの深さは約15(～22)cmである。  
遺物 出土していない。  
所見 本土坑の具体的な時期・役割は不明である。古い時代の掘り込みというよりも木根の跡のような印象が強い。

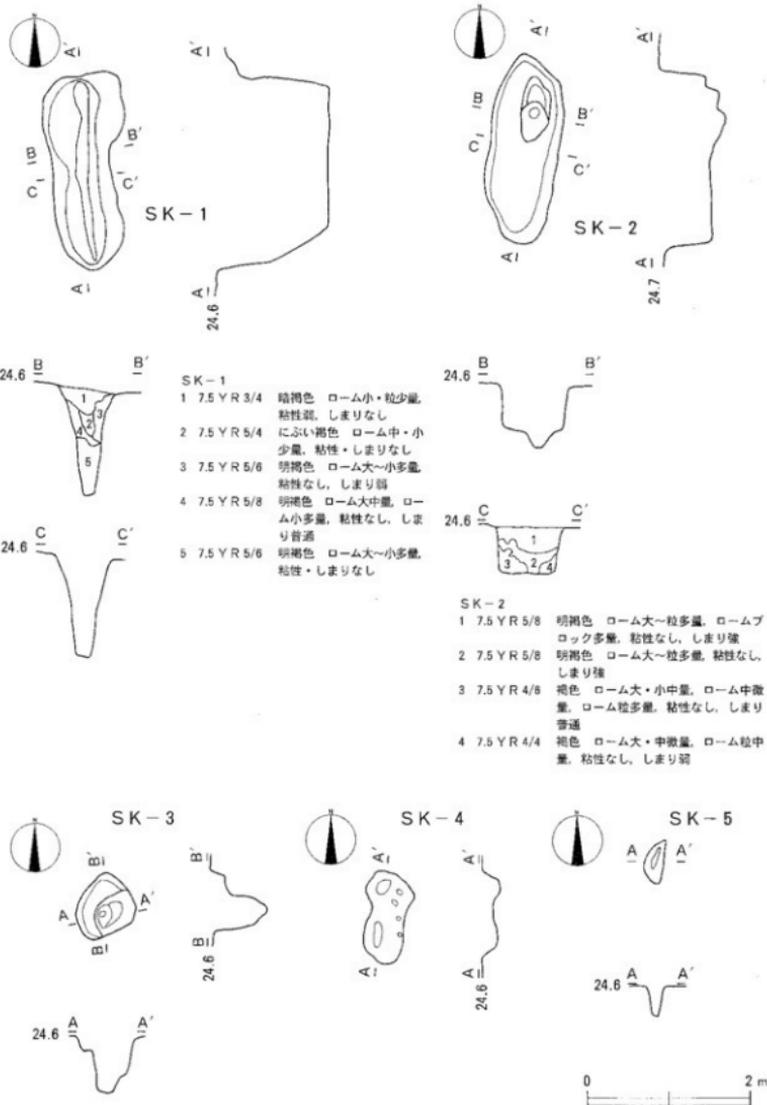


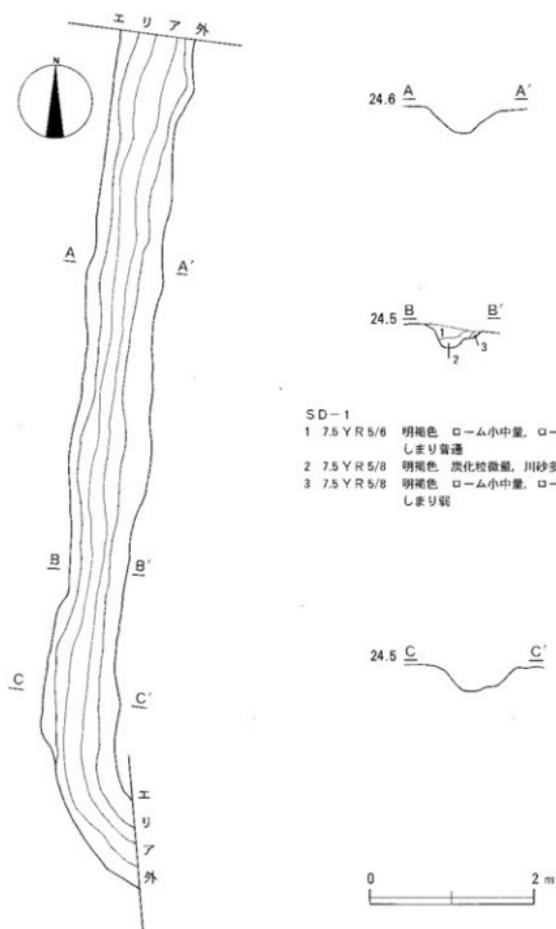
図9 1~5号土坑

◆ 5号土坑 [図9]

長軸方向	N-10°-W
規模と形状	径約55×25cm。上面観は細長い楕円形状を呈する。
壁面	ほぼ垂直に立ち上がる。
底面	細長い楕円形状を呈する。
遺物	出土していない。
所見	本土坑の具体的な時期・役割は不明である。古い時代の掘り込みというよりも木根の跡のような印象が強い。

◆ 1号溝 [図10]

規模と形状	幅約80(～100)cm。断面観は、緩やかな逆台形状を呈する。
方向	調査区北端から約10mほど南に伸びて東方に屈曲し、調査区東端に至る。
覆土	掘り込みの最下部からは、2層の砂が溝内の全体で検出された。砂は、遺跡の立地する台地上部の構成層には含まれないものである。
遺物	出土していない。
所見	この溝の具体的な時期・役割は不明である。



SD-1

- 1 7.5 YR 5/6 明褐色 ローム小中量、ローム、粒多量、粘性なし、しまり普通
- 2 7.5 YR 5/8 明褐色 炭化粒微量、川砂多量、粘性・しまりなし
- 3 7.5 YR 5/8 明褐色 ローム小中量、ローム粒多量、粘性なし、しまり弱

図10 1号溝完掘状況

## 第4章 調査のまとめ

今回のいさろ遺跡の発掘調査では、古墳時代中期の竪穴住居1軒と土坑5基、溝1条を発見することができた。この調査によって、昭和55～57年度の分布調査で土師器片や須恵器片が表採された、当遺跡の具体相の一端が明らかにできたと考える。特に竪穴住居から出土した土師器は、櫻村宣行氏の編年案を参照すると、Ⅰ段階からⅡ段階の間に収まるものと推定され、古墳時代中期でも前半に位置付けが可能である。

近年、花室川中・下流域では発掘調査が比較的多く実施され、資料の蓄積が進みつつある。その中でも特に古墳時代は、集落跡や古墳群の調査事例に恵まれており、両者の対応関係や時期ごとの変化に着目した地域内の集落の変遷など、検討すべき課題は多く残されている。

当調査では古墳時代中期の住居が見つかったが、内出後遺跡、神出遺跡、寺家ノ後A遺跡・同B遺跡などでは、同時期の可能性のある住居跡が調査されている。今後は、土器編年の検討とともに地域相の解明が課題となってくるだろう。その意味で、本書が当地域の歴史の復元に寄与しうるものとして利用されることを期待してやまない。

報告を締めくくるにあたり、当調査の実施にあたって多大なご協力をいただいた事業者、地権者、関係各位の皆様に、文末ながら厚く御礼申し上げます。

## 参考文献（敬称略・50音順）

茨城県教育委員会 1990 『茨城県遺跡地図』

茨城大学人文学部史学第6研究室（茂木雅博）1984 『土浦の遺跡—埋蔵文化財包蔵地—』 土浦市教育委員会

大島 秀俊ほか 1983 『日本窯業史研究所報告第15冊 茨城県土浦市永国遺跡』 日本窯業史研究所

大関 武 1996 「鬼高式」への移行期の上器様相『研究ノート』6号 財団法人茨城県教育財団

櫻村 宣行 1995 「和泉式土器編年考」『研究ノート』5号 財団法人茨城県教育財団

加藤 雅美 1985 「当教育財団調査の和泉期における住居形態の一般的特徴について」

『年報4〈昭和59年度〉』

財団法人茨城県教育財団

上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2000 『土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第6号（平成11年度）』

小松崎猛彦 1990 『茨城県教育財団文化財調査報告第60集 寺家ノ後A遺跡 寺家ノ後B遺跡 十三塚A遺跡

十三塚B遺跡 永国十三塚遺跡 旧鎌倉街道』

財団法人茨城県教育財団

土浦市教育委員会 1992 『土浦市埋蔵文化財地図』

平岡 和夫ほか 1999 『東出・神出・中居遺跡』

土浦市遺跡調査会 土浦市教育委員会

矢ノ倉正男 1996 『茨城県教育財団文化財調査報告第111集 右村貝塚東遺跡 内路地台遺跡

念代遺跡 平坪遺跡』

財団法人茨城県教育財団

## いさろ遺跡調査会組織（敬称略 50音順）

会	長	須田直之	土浦市文化財保護審議会長
副	会	五頭英明	土浦市教育委員会教育次長
理	事	大塚博	土浦市文化財保護審議会委員
理	事	飯沼正勝	土浦市建築指導課長
理事(事務局担当)		岩沢茂	土浦市教育委員会文化課長
監	事	土肥敏郎	土浦市教育委員会総務課長
監	事	宮川卓久	土浦市監査事務局
事	務	来栖稔	上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長
事	務	加藤寛治	上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員
事	務	北山敏道	土浦市教育委員会文化課文化財係職員
事	務	石川功	上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員
事務局員・出納員・調査担当		比毛君男	上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員
事	務	鈴木ひとみ	上高津貝塚ふるさと歴史の広場臨時職員

## いさろ遺跡調査者名簿（敬称略 50音順）

試掘確認調査	比毛君男	松田剛	
発掘調査担当	比毛君男		
発掘参加者	大坪美知子	椎名喜代作	土田幸子 長嶺道子 矢口多美子
	矢口照絵		
整理調査担当	比毛君男	福田礼子	
整理参加者	新井栄子	石山春美	長嶺道子

報告書抄録

ふりがな	いさろいせ							
書名	いさろ遺跡							
副書名	電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
編著者名	比毛 君男							
編集機関	いさろ遺跡調査会/〒300-0811 土浦市上高津1843番地(上高津貝塚ふるさと歴史の広場内)							
発行機関	土浦市教育委員会/〒300-0812 土浦市下高津二丁目7-36 電話 0299 (26) 1111(40)							
問い合わせ先	上高津貝塚ふるさと歴史の広場/〒300-0811 土浦市下高津1843番地 電話 0298 (26) 7111							
発行年月日	2001(平成13)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いさろいせ いさろ遺跡	いさろいせのちうらし 茨城県土浦市 こいわたにし 小岩田西一丁目 497-1他	08203	5253 B-8	36° 3' 23"	140° 11' 39"	2000年 (平成12) 5月23日 ? 6月6日	約220㎡	電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
いさろ遺跡	集落跡	古墳時代中期	竪穴住居1軒		土師器、土製品、石製品		古墳時代中期の竪穴住居1軒を発見した。	
		縄文時代	土坑	1基	縄文土器細片			
		時期不明	土坑 溝	4基 1条				

# 写 真 图 版



花室川低地より北へ調査区を望む（矢印が調査区）



調査区より南へ花室川低地を望む

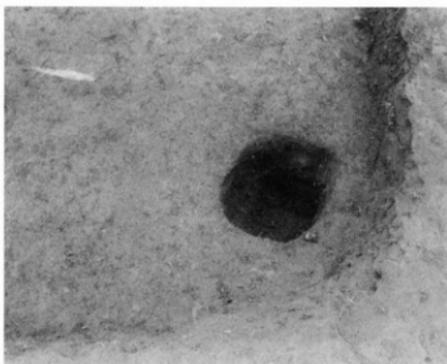
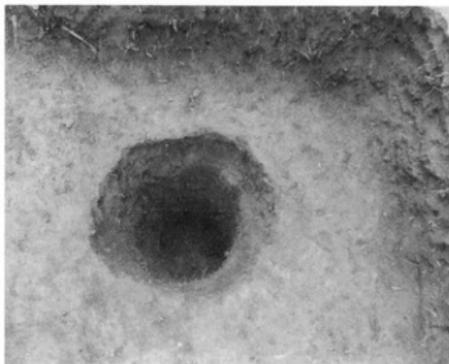
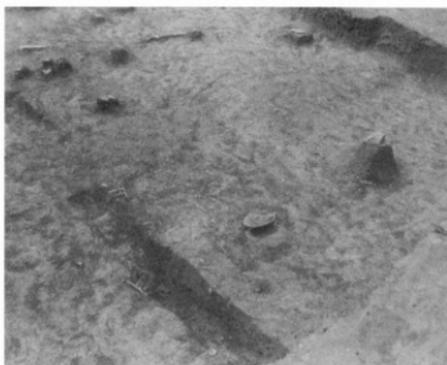


1号住居完掘状況



1号住居遺物出土状況

PL 3 1号住居検出状況



左上 西壁周辺（北から）

左中 炉検出状況

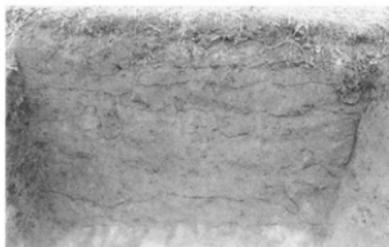
左下 1号ピット

右上 北壁周辺（南から）

右中 南壁周辺（南から）

右下 3号ピット

PL 4 1号溝・1号土坑



左上 1号溝

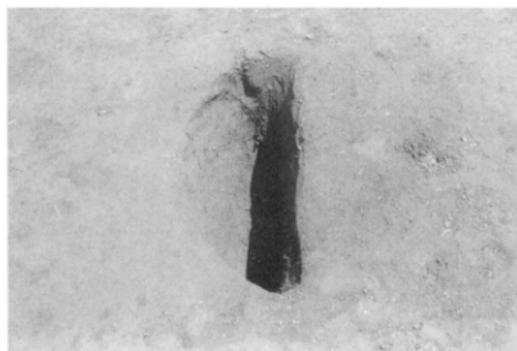
右上 1号土坑

左中 基本層序

右下 1号土坑上層堆積

左下 作業風景

PL 5 2~5号土坑



左上 2~5号土坑

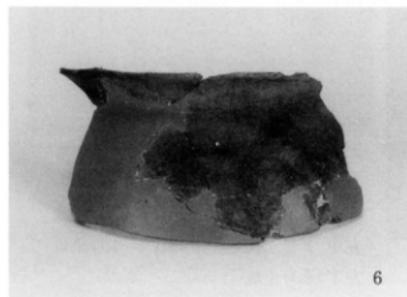
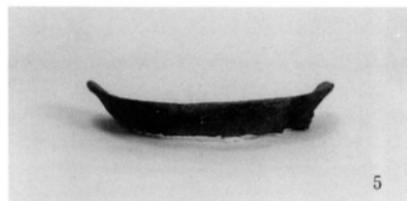
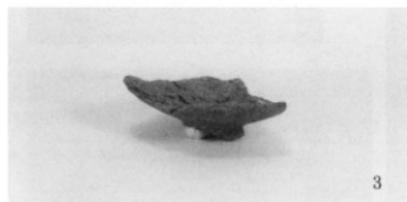
右上 2号土坑

左中 3号土坑

右下 4号土坑

左下 5号土坑

PL 6 1号住居出土遺物(1)



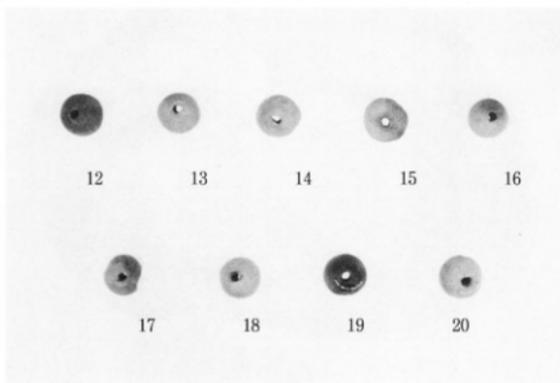


8



9

PL 8 1号住居出土遺物(3)



---

## い さ ろ 遺 跡

電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

編 集 いさろ遺跡調査会  
発 行 土浦市教育委員会  
問い合わせ先 上高津貝塚ふるさと歴史の広場  
〒300-0811 土浦市上高津 1843 番地  
電話 0298(26)7111  
発 行 日 平成13(2001)年3月31日  
印 刷 藤 須 崎 印 刷

---